岡山県議会議員

木口京子

後援会入会のご案内
討議資料

ご挨拶と決意

みなさまに支えられた二期目の任期も残すところあとわずかとなりました。責任感を胸に、少しずつ地域のみなさまの輪に入れていただきながら、目の前のことに取り組んできました。

平成元年の秋にベルリンの壁が崩れ、冷戦は終焉を迎えました。私が大学生の時でした。その後、国際連合を議論の場として世界は平和と安定の時代を迎えるのかと期待していましたが、世界各地で民族紛争や宗教対立が起こり、テロが頻発し、多くの難民が生まれ、世界は不安定な状態です。第二次大戦後に少しずつ積み重ねてきた戦後世界の秩序を保つことができるのか、有限な地球環境を破壊しつくすことなく未来へとつなぐことができるのか、人類にとっても大切な場面だと思います。

日本は今、人口減少と少子高齢化が世界一のペースで進んでいます。岡山県の高齢化率は全国平均よりも高い三〇・〇%です。また、情報技術の革新とグローバル化により、世界は劇的な変化が予感されるものの、私たちの政治行政の仕組みは、変化への一歩を踏み出すことができず、立ちすくんでいます。〝私たち一人ひとりの生き方が、岡山の未来になる。〟そんな思いで、少し先の未来を見通して、今、必要なことを提案し実現へとつなげてゆきたいと思います。

岡山県議会議員　木口京子

木口京子が目指す岡山の姿

誰もが安心して暮らせる地域

～心細さを支え合うために～

災害に備えて
- ＊自助・共助・公助を原則に、地域防災に備える。
- ＊国、県内外の相互連携を強め、相互扶助の精神で広域防災を強化する。
- ＊お年寄りや子ども、障害のある人たちの避難に備える。

地域で暮らす
- ＊人生100年時代に、支え合い、遊び、学び続けることのできる地域をつくる。
- ＊鉄道、バス、タクシーなど、地域の実情を踏まえた公共交通を目指す。

将来を担う人材づくり

～愛されること、期待すること、期待に応えること、褒められること～

子どもたちの教育
- ＊元気な体と明るい心、優しい心を育てる。
- ＊確かな学力をつける。
- ＊障害のある子どもたちへの切れ目のない教育支援を行う。

新たな挑戦のために
- ＊誰もが、いつからでもどこにいても学び直せる仕組みをつくる。
- ＊一歩踏み出す勇気を支える。

産業振興のために

～夢を持って頑張れる地域の産業をつくるために～

- ＊地域を支える基盤としての農林水産業の未来をつくる。
- ＊モノづくりの思いと技術を育てる仕組みをつくる。

全ての女性が輝く社会づくり

- ＊地域や家庭を支える女性が、もっともっと多くの場で活躍するために。
- ＊働く場、学ぶ場、話す場、相談の場などの“場”をつくる。

木口京子後援会の活動にご協力ください

○後援会入会へのご協力…お知り合いの方などへもお声かけ、ご紹介ください。
○ポスター掲示へのご協力…ポスターを掲示していただける場所がありましたらお知らせください。
その他、木口京子の話を聞いていただける場や、活動のお手伝いなど、ぜひお力添えください。

木口京子後援会事務所
TEL:086-363-5030
FAX:086-363-5031
〒709-1203 岡山市南区西紅陽台2-58-594
kiguchi.zimusyo2015@gmail.com

木口京子のプロフィール

昭和四十二年九月九日生まれ（乙女座）　血液型：O型
東京女子大学文理学部史学科卒業
（株）ハナエ・モリ インターナショナル 会長秘書
細川護熙秘書
新党さきがけ 政策調査会
AMDA国際福祉事業団監事
公設国際貢献大学校講師
岡山県議会議員（二期）
文教委員会
環境文化保健福祉委員会
地域振興・防災・環境対策特別委員会 副委員長
決算特別委員会　副委員長　など
岡山県精神保健福祉審議会委員

尊敬する人物：石橋湛山、犬養毅、李香蘭
好きな食べ物：白いご飯、桃
よく歌う曲：由紀さおり「ゆらゆら」「桃の咲くころ」、テレサ・テン「時の流れに身をまかせ」、坂本冬美「また君に恋してる」
よく聞くミュージシャン：小田和正、玉置浩二、サラ・ブライトマン
好きな映画：「砂の器」、「ウィンストン・チャーチル　ヒトラーから世界を救った男」
趣味：芸術鑑賞（美術館巡り・映画・音楽・歌舞伎・能・狂言）、読書、神社仏閣巡り
好きな作家：恩田陸、吉本ばなな、宮本輝、マルグリット・デュラス、シェイクスピア

鼎談 田中秀征氏、柳田清二氏を迎えて

政治家としての原点

私が大学生の頃に昭和が終わり平成を迎えました。その後、ベルリンの壁が崩壊し、世界は冷戦時代を終えました。卒業後、ハナエモリを経て、縁あって政治の世界に足を踏み入れてから三十年。今、岡山県議会議員として二期目を務めさせていただいています。平成最後の統一地方選挙を迎えるにあたり、あらためて私自身の原点を再確認したいと思い、細川護熙政権で首相特別補佐、第二次橋本龍太郎内閣で経済企画庁長官を歴任された、尊敬する田中秀征先生と、かつての同僚であり、地方行政に携わる先輩でもある長野県佐久市の柳田清二市長にお時間をいただき、鼎談をさせていただきました。

木口： 今日はお忙しいところありがとうございます。お二人とのご縁は、平成五(一九九三)年の衆議院議員選挙の後、国会内で新党さきがけと日本新党が統一会派を組むことになり、議員会館内に政策調査会を設ける際に、私が日本新党から政策調査会に派遣されたことに始まります。当時、秀征先生はさきがけ日本新党の統一会派代表、柳田さんは井出正一先生の秘書でした。

保守とは何か

柳田： ここ一年くらい保守とは何かという議論がウンと盛んに行われている気がしますが。

田中： 京都大学の高坂正堯さんがね、僕に、元号を尊重するということはやっぱり健全な保守にとって非常に必要なことだと言われたことがある。毎日新聞に、吉永みち子さんが書いていたけど、西暦というのは、キリスト教関係のものだということを抜きにして、日本人にとって物理的な時間の経過というものを示す以上のものではない。だけど、元号というのは、時代をひとくくりにするという機能があって、時代の個性を示すものだし、その時代に目標とか志を盛り込んで臨むことができる。だからこの間、テレビで「平成は平和の時代として記録される」と発言した。それはそこまで意識して言ったんだけどね。その時代の個性というものを表すには元号というものは最適だ。やっぱり百年単位の西暦だと、比べるものを持たなくなるでしょう。元号は、少なくとも一人につき二つくらいの時代を体感できる。

柳田： 昭和と平成を生きたとか。

田中： そういう意味で元号というのは、人間の営み、人間社会の営みにとって好都合なものだから大事にされてきた。それは天皇制とどうのということとは別にして二つの知恵。それと同時に保守というものは、一つのユートピアを掲げてそれを目指すというものではなくて、人類社会の成り立ちとか、継続に対して絶対的に必要な条件について常にそれを気にかけている。そういう思想を言うんだと。だからいわゆるリベラルとかそういう話になるとややこしくなるんだけど、そういう意味で突っ込みが足りないから、人間社会の成り立ちに絶対必要なもの、それを継続していくために絶対必要なものを、人間がその都度考え出してその方向に進んできたから人類史は続いてきている。

柳田： なるほど。必要なもの、大切なもの。

田中： その共通した、時代を問わず共通した核心部分、真髄みたいなものを尊重していくのが保守っていう思想だろうと、難しく言えばそういうこと。

柳田： なるほど、元号と保守。

田中： だから、今の保守本流というのをひとことで言うと、NHKの「ダーウィンが来た」を観てると、やっぱり生物、動物というのが全部共通しているのは、自分のテリトリーを命がけで守り、それを拡大するということ。だけど、ほかの動物

さきがけの「政治理念」

(1) 私たちは日本国憲法を尊重する。憲法がわが国の平和と繁栄に寄与してきたことを高く評価するとともに、時代の要請に応じた見直しの努力も傾け、憲法の理念の積極的な展開を図る。

(2) 私たちは、再び侵略戦争を繰り返さない固い決意を確認し、政治的軍事的大国主義を目指すことなく、世界の平和と繁栄に積極的に貢献する。

(3) 地球環境は深刻な危機に直面している。私たちは美しい日本列島、美しい地球を将来世代に継承するため、内外政策の展開に当たっては、より積極的な役割を果たす。

(4) 私たちはわが国の文化と伝統の拠り所である皇室を尊重するとともに、いかなる全体主義の進出も許さず、政治の抜本的改革を実現して健全な議会政治の確立を目指す。

(5) 私たちは、新しい時代に臨んで、自立と責任を時代精神に据え、社会的公正が貫かれた質の高い実のある国家、「質実国家」を目指す。

と人間が違うのは、失敗した時に学んでいくこと。学ばなかった例としてヒトラー時代のドイツがある。だから、一度失敗したことを二度とそれを反省して繰り返さないというのが人間の一番の特性だと僕は思っているから。

そうだとすると、戦後の保守本流は二度と失敗を繰り返さないというものを根本的な理念として持っていると思ってきた。だから戦前の国策の誤りを繰り返さないということが大事だと思う。

政治の場に出ようとした原点

柳田: 先生のさっきの元号の話は非常に保守の感じがするよね。そしてウンと納得した。こういうことを聞いたことがある。先生の、さきがけをつくる時の大切な五か条。天皇制を尊重し、ということが書いてあって、僕は、天皇制を尊重というのは、それはそうだと思っていたけど、さきがけというものを今つくる時にこれを一つ入れるとはどういうことなのか尋ねたら、変わり者は来るなということなんだと言われた。そんなことから議論しなきゃいけないような奴は入ってこなくていいということだって先生に言われた。

田中: 要するに、具体的に言うとイデオロギーが浸みついた人が入る余地をなくしたんだ。

柳田: なるほど。

木口: うん、大切ですね。

田中: あの五原則は今もって好きだという人は多いんだ。

柳田: そうですよね。らしいですよね。今見ても本当にいいですよね。

木口: 私にとっても、さきがけの五原則は政治の原点であり、それがずっと私を支えていますね。

田中: 木口さんは、これから、このさきがけの理念を自民党内でどんどん広げて下さい。それをいつか期待しています。

公に対する姿勢

柳田: 昭和の、戦後というか、昭和三十年、四十年頃の霞が関の質というのは、今よりもずっとよかったですか?

田中: ずっとよかった。

柳田: どうしてよかったのでしょうか?

田中: 職業は違っても戦中、戦争の苦労と、戦後の貧しい時代の苦労を共にしている。どこの家も貧しく大変だった時代。それで、全ての人が戦争の被害に遭っているから、戦後の再建については同志なんだよ。お前は新聞記者が適しているから新聞記者になれ、お前は政治的に優れているから政治家になれ、俺は先生か役人になる、いずれにしても戦後の再建のために共通の目標のために頑張ろうという共通の志があった。それが今はないんだよ。

柳田: 共通目標があった。

田中: 今はそれがないんだよ。

柳田: 公っていうものに対する姿勢が純粋だった。

田中: そうそう。それは時代がつくり出したもの。今、恵まれた教育環境、経済環境にある人がエリートになると、何かとても大事なものが欠けてきたのではないか。それはある種どうしようもないものだから、どんどんどん階層化が進んでくる。

柳田: 何事もそうだと思いますが、公に対する姿勢が純粋であればあるほど支持がある。そこにどこか我田引水的なものがあると、それは本人じゃなくて、仲間とかも含めてね、それをウンと毛嫌いするんだと思う。何か木口さんは、そういう主張ができるといいんじゃないの。公に対して純粋だってとらえられる。人はそういう人に対して心が揺れるんじゃないの?

田中: わりあいにね、そういうのはね、何回も選挙をやっていてそういうことは浸透しつつあると思う。彼女の人柄のようなもの。おっとりしてるとかね。

柳田: 新人じゃないですからね。二回やってるから。

田中: ただ、おっとりした印象は逆に必死になっていない印象にはなるね。だけど、必死にならなかったらこういう厳しい選挙なんかやっていられないよね。

木口: 見た目が必死じゃなくても、ずっとそうなのでしょうがないです。

柳田: 一生懸命にする姿を見られたくないタイプ?

木口: 別にそんなことは思っていない。目の前のことにはちゃんと取り組んでいると思うし。

柳田: 一生懸命な姿を見られるのは恥ずかしいという人もいるからね。

木口: 人から見てどうかなんてあまり考えたことはないから。

田中: だけど、ずっとこの人を見てると、きちっと約束を守る。言ったことを実行する。そういう印象が強い。

柳田: それはウンと大事だよね。みんなが政治に対して期待しているのはそういうことじゃない。

田中: そこは大事だよ。

政党のこと

田中: 僕なんかもそうなんだけど、政党の政治的な所属の問題というのは、ある種自分で必然性をもってやってきたと思うんだけど、あなたを見ていて、僕から見ていておかしいとは思わないんだ全然。だけど、一応、はたから見るとあきらかに党が違うじゃないかと。

木口: そうですね。私自身は全く変わっていないんですが…。

田中: 要するに、平成に入って、平成の十数年間というのは、中央政界が非常に激動した時代だから、中央、地方を問わず政治家の所属も変えざるを得なかった。そのことは、別におかしなことではない。木口さんを見ていて、いわゆる保守本流の歴史認識を貫くというところにおいて、あなたにはブレはないよ。ウンと大事なこと。それから、金権とか利権と言われるものに、無縁だし、それを避けて通ってきたというところを、僕は印象として持っている。もう一つは、大きな組織に振り回されないように気を付けて生きている。そういう点で、あなたは一貫しているという風に僕は見ている。だから表面的に所属が変わるということはそれほど問題にしていない。(4ページに続く)

経歴

田中 秀征 (たなか しゅうせい)

昭和15年長野県生まれ。東京大学文学部西洋史学科、北海道大学法学部卒業。昭和58年に衆議院議員初当選。平成5年6月に新党さきがけを結成し代表代行に就任。細川護熙政権の首相特別補佐。第1次橋本龍太郎内閣で経済企画庁長官などを歴任。福山大学教授を30年務め、現在、福山大学客員教授、石橋湛山記念財団理事、「民権塾」塾長。

柳田 清二 (やなぎだ　せいじ)

昭和44年長野県生まれ。中央大学経済学部卒業。井出正一元衆議院議員秘書、平成9年4月から佐久市議会議員、平成11年4月から長野県議会議員を経て、平成21年4月から佐久市長。現在3期目。

（3ページから続く）ただ、その流れの中で、あの時の選挙はもう少し考えればよかったとか、そういうことはいっぱいあるだろう。それはそれでみんなそういうことがあるんだから。ようやくいろんな経験をしてこれから本番という、そういう風に僕は思っているんだよね。

木口： ありがとうございます。今回二期目が終わりに近づいて、ようやく、ようやくというのは遅すぎるのかもしれないですけど、もちろんこれまでも素直に責任感とみんなのためにできることをしようという思いを持って目の前のことに取り組んできましたが、この仕事がどういう風に本当に人の役に立つのかわかってきたような気がします。これから、今回もしも這い上がらせていただいたら、もっと腰が据わってくるんだろうとなあと自分自身でも思っています。

田中： やっぱり、我々から見て、今までは助走をしていた。助走段階で、これから本番に入っていくというかね。そういうある種の冒険も、たまたま独り身だからできるということもあるな。

木口： そうですね。私は尽くし型だから、そういう人がいたら絶対にできません。自分であるために独りでいるというところがあります。

柳田： じゃあ、住民のみなさんに尽くしているんだ。

木口： はい。今はもう全ての時間をそのために使っています。

柳田： それはいいね。

地方行政に携わる者として気を付けていること

木口： 柳田さんが、国会議員の秘書をして、市議会議員や県議会議員を経験して、今は首長として地方行政に携わる中で、いつも心に置いていることは何ですか？

柳田： 僕が県議会議員の時に、飯田高校事件という、応援団長だった高校三年生が高校二年生を理科室で刺し殺すという事件があって、僕は、何に課題があったのか、次に起こさないためにはどうすればよいのかを検証するために自分で取材をしたんだけど、このお父さんお母さんにしてみれば、どなた様でも話を聞いてほしいんだよね。保守政治家として、こういう細やかなところ、福祉的な課題に取り組むことは大切だと思う。

木口： 私もそう思う。これまで、若年女性が様々な犯罪に巻き込まれないための居場所づくりとかDV防止などに関わってきたけど、こういうテーマにも保守政治家はもっと関わっていいと思います。

柳田： 自分が首長になって感じたのは、金があるかないかということよりも、筋が通るか通らないかだなと。筋が通ることなら、逃げられない。予算執行せざるを得なくなる。財政的に逼迫しているからと逃げることはできるけど、筋が通っていればいずれやらなければ逃げられなくなる。そういう中で、県議会議員時代に、当時の田中康夫知事に対しては、僕はいつも論破してやりたいと思っていたけど、論破しようと思っていると論破できない。その人の正しいところを認めたうえで指摘するというやり方をしなければ、この人だって考えているんだから、いいところは認める。間違っていることといいことを分けてしないと負けてしまう。それと、その時結果を求めないということ。指摘しておくことが大切。しばらくして指摘しておいたことがどうなったかという方法がいいと思う。

木口： そうですね。私が最初に県議会議員に立候補する決断をする時に悩んだのは、地方自治は首長と議会が車の両輪であり、議会は首長の施策をチェックする役割ということ。私は物事を多面的にとらえようとするし、あまり追及するタイプではないから。

田中： 柳田君は今、長野県で最も有名な市長だし、人気があるし、有名なんだよ彼は。

木口： そうなんですね。でも、いつも選挙は大変よね。

柳田： 首長をやっていると、あの国民福祉税の時に細川さんの支持率が高くて、大蔵省がここまで支持率が高いんだから国民福祉税をやっても二割くらいが減るだけで、まだキープできるだろうという議論があったじゃないですか。僕も本当に、首長をやっていて感じるよ。自分の支持というものを職員に使われていく感じがする。クリーンセンターといって、ごみ焼却場の場所決定と、火葬場の場所決定をしたことで、どんどん支持が離れていくもんね。でも逃げられないよね。それでもし逃げたら市役所内での支持がウンと離れて、逃げたっていうことで、職員には如実にわかるじゃない。だから逃げることはできないよね。

田中： 嫌なことでもね。やらなきゃいけない。

木口： そうですよね。政治家には判断力と決断力が必要ですね。

（平成三十一年一月六日　東京都内にて）

活動報告

Photo：（1ページ）①「仲良しクラブ」でお昼ご飯づくり／②町内のお餅つき／③夏祭りで皆さんと
（4ページ）④⑤米国国務省人物交流プログラムの米国研修／⑥おかやまマラソンを応援／⑦お祭りの建労岡山支部テントで／⑧今期最後の議会質問／⑨インターキッズ国際塾で講演／⑩書道議員連盟事務局長として／⑪シャープタカヤ電子工業視察／⑫女性消防団操法訓練（指揮者を務めました）